

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	英会話Ⅰ			授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	日常会話に必要な最低限の英語力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜授業内容に関するプリントを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Getting Acquainted		会話と板書による学習		
2	Getting Acquainted		会話と板書による学習		
3	Experiences		会話と板書による学習		
4	Experiences		会話と板書による学習		
5	Sport & Lisure		会話と板書による学習		
6	Sport & Lisure		会話と板書による学習		
7	Shopping & Money		会話と板書による学習		
8	Shopping & Money		会話と板書による学習		
9	Food		会話と板書による学習		
10	Food		会話と板書による学習		
11	Travel		会話と板書による学習		
12	Travel		会話と板書による学習		
13	Movies & Television		会話と板書による学習		
14	Movies & Television		会話と板書による学習		
15	Work		会話と板書による学習		
16	Work		会話と板書による学習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。		
実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	英会話 II			授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身につけるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	語彙力 (自然)			会話と板書による学習	
2	語彙力 (道具)			会話と板書による学習	
3	語彙力 (天気・地形・病気やケガ・体)			会話と板書による学習	
4	ガイディングに必要な英会話 (グリーンシーズン)			会話と板書による学習	
5	ガイディングに必要な英会話 (スノーシーズン)			会話と板書による学習	
6	ガイディングに必要な英会話 (ガイディングの一連の流れ) (挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など)			会話と板書による学習	
7	5分間の英語発表 (ガイディングに関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
8	5分間の英語発表 (ガイディングに関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
9	アウトドアショップに必要な英会話 (接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方)			会話と板書による学習	
10	アウトドアショップに必要な英会話 (接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方)			会話と板書による学習	
11	飲食店で必要な英会話 (接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)			会話と板書による学習	
12	飲食店で必要な英会話 (接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)			会話と板書による学習	
13	宿泊施設に必要な英会話 (受付・誘導・案内)			会話と板書による学習	
14	宿泊施設に必要な英会話 (受付・誘導・案内)			会話と板書による学習	
15	5分間の英語発表 (ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
16	5分間の英語発表 (ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。	
実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	英会話Ⅲ			授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイディングに必要な語彙力と英会話力を身につける。 ・英会話実習に向けたショップ・飲食店・宿泊施設等で使える英会話を身につける。 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	語彙力(自然)			会話と板書による学習	
2	語彙力(道具)			会話と板書による学習	
3	語彙力(天気・地形・病気やケガ・体)			会話と板書による学習	
4	ガイディングに必要な英会話(グリーンシーズン)			会話と板書による学習	
5	ガイディングに必要な英会話(スノーシーズン)			会話と板書による学習	
6	ガイディングに必要な英会話(ガイディングの一連の流れ) (挨拶・自己紹介・行程・危険箇所・体調・装備・体操・順番・休憩・水分補給など)			会話と板書による学習	
7	5分間の英語発表(ガイディングに関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
8	5分間の英語発表(ガイディングに関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
9	アウトドアショップに必要な英会話(接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方)			会話と板書による学習	
10	アウトドアショップに必要な英会話(接客・商品説明・電話応対・会計・数字やお金の数え方)			会話と板書による学習	
11	飲食店で必要な英会話(接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)			会話と板書による学習	
12	飲食店で必要な英会話(接客・誘導→注文→配膳・予約・会計)			会話と板書による学習	
13	宿泊施設に必要な英会話(受付・誘導・案内)			会話と板書による学習	
14	宿泊施設に必要な英会話(受付・誘導・案内)			会話と板書による学習	
15	5分間の英語発表(ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
16	5分間の英語発表(ショップ・飲食店・宿泊施設に関する内容)			発表者は事前に準備しておくこと	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
出席率と授業態度及び英語発表により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。	
実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	上級救命講習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講習用テキスト配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	<ul style="list-style-type: none"> ■講師紹介挨拶 重要性・必要性(DVD) ■成人に対する心肺蘇生法(1人法実技) ■AED説明(DVD) ■CPR+AED(2人1組にて実施) ■効果測定(筆記試験) ■解説 ■効果測定(実技試験) ■各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) ■各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) ■まとめ(質疑応答・事務連絡等) 		DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。		
実務経験教員の経歴	外部講師：頸城消防署員				

科目名	フィールド観察		授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○
対象学科	野外教育・アウトドアアドバイザー/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期 通年
必修・選択	必修	単位数	時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	妙高に生息する動植物、自然環境を題材として、人、地域などの違いによる様々な価値観に触れ、自分の体験を通して、自然を見る目、態度を養うことを目的とする。 授業終了後にジャーナルを作成し、今後の授業に活かします。			
学習目標 (到達目標)	自然事象同士の関係性、自然と自分との関係性について知る。 知る、分かる、調べる、考えることの楽しさを味わう。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■新・山野の野鳥 ■新・水辺の野鳥 ■Field Guide 23 葉で見分ける樹木 (増補版) ■日本の高山植物400 ■その他配付資料			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考	
1	前期ガイダンス/鳥類観察 (i-nac周辺) ※全学科合同28+OES5		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。講師：向、杉山 (遠藤、吉田)	
2	森林セラピー体験 ※MP9、OES11、CB2		フィールドに出かけて、野外学習を実施。 講師：外部講師	
3	天気予報と観天望気 (i-nac周辺) ※MP9		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。講師：笠原	
4	里山の植生と山菜 (杉之原) ※MP9、OES11、CB2		フィールドに出かけて、野外学習を実施。 講師：竹石	
5	ため池の動植物観察 (河川に変更もある) ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。講師：杉山、向)	
6	山の成り立ちと地質 (戸隠) ※MP9、OES11、CB2		フィールドに出かけて、野外学習を実施。 ※講師：田辺智隆	
7	高山の植物特性と保全 (白馬村) ※MP9		フィールドに出かけて、野外学習を実施。山岳基礎知識と合体授業。講師：坪井	
8	里山の樹木 (演習林) ※MP9、OES11、CB2		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。 講師：吉田	
9	後期ガイダンス/哺乳類の骨 ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。講師：杉山	
10	紅葉と里山の自然 ※MP9、OES11、CB2		フィールドに出かけて、野外学習を実施。(吉田)	
11	山岳信仰 (関山周辺) ※MP9、OES11、CB2		フィールドに出かけて、野外学習を実施。(外部講師：田村)	
12	危険生物 (座学/高床山森林公園) ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。	
13	秋の里山の生物観察 ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールド・施設に出かけて、野外学習を実施。外部講師担当。	
14	3年生による自然ガイド体験 ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。	
15	冬の生物観察 (演習林) ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。	
16	3年生による自然ガイド体験 ※全学科合同		教室でガイダンス後、フィールドに出かけて、野外学習を実施。	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意	
出席日数、授業態度、適宜おこなう習熟度テストをもとに総合的に判断する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			■授業の最後に小テストを実施する回があります。 ■授業での気づき、疑問、考えを記録として残しておくこと。後期の別授業での資料となります。	
実務経験教員の経歴			下記教員がそれぞれの専門を生かして自然観察を通じた生き物や自然環境の教育を行う。 吉田：登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年 外部講師：公益社団法人日本山岳ガイド協会認定・登山ガイドステージII、登山ガイドステージII、戸隠地質化石博物館館長、白馬五竜高山植物園職員・日本植物園協会会員、気象予報士、他、専門性の高い講師多数。	

科目名	スポーツ生理学			授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	運動生理学は、運動によって身体にどのような変化が応じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する学問である。運動中（活動中）に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、運動生理学の知識を身につけることで、体力の向上・健康の維持・増進のための方法について理解する。				
学習目標 (到達目標)	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	登山の運動生理学百科、A cross-country skier's training based on exercise physiology				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	運動生理学とは？（筋線維タイプについて （あなたはマグロ系？鯛系？それとも、、、））		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
2	筋力について マッチョなボディビルダーは、マラソンが走れるか??		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
3	エネルギー代謝とエネルギー供給系		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
4	①持久力とは？呼吸循環系の持久力 （心拍で運動コントロール）		テキスト、動画、実技、心拍計にて実施		
5	②持久力とは？筋持久力（登山しよう！トレランしよう！ 山は天然トレーニングジム）		テキスト、動画、実技、心拍計にて実施		
6	効果的な持久トレーニング（最新!!ノルディックフィットネス） 神経について（神経が筋肉を司る）		テキスト、動画、実技、ノルディックポール		
7	成長過程で考えるトレーニング （継続は力なり！でもやみくもにやってもねえ、、、）		テキスト、動画、実技		
8	登山と疲労。登山と体力トレーニング。 （山が好きな人はとっても大事）		テキスト、動画、		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			筆記用具、時計		
実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年				

科目名	スポーツ栄養学			授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 山岳プロ/	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	「スポーツ栄養学」という言葉が生まれたのはごく最近のことです。言葉の通り、一般の人が普段の生活で必要となる食事とスポーツの分野でトップを目指すための食事は全く別のものと言っても過言ではありません。本授業では自分自身の食生活の振り返りと改善策を見つけることを目標とします。				
学習目標 (到達目標)	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	基礎から学ぶ！ スポーツ栄養学（ベースボールマガジン社）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	栄養素と食品の基礎知識 ① エネルギーになる栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質）		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
2	栄養素と食品の基礎知識 ② 身体をつくる栄養素（タンパク質、ミネラル）		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
3	栄養素と食品の基礎知識 ③ 身体のコンディションを調整する栄養素（ビタミン、水）		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
4	身体のしくみ ～消化のしくみ、代謝・吸収のしくみ～		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
5	エネルギー代謝のしくみ		テキスト、動画、（持ち物）筆記道具		
6	コンディショニングのための食事① ～アスリートにとっての食事とは～		テキスト、動画、コンビニ製品、プロテインパウダー		
7	コンディショニングのための食事② ～アスリートに必要な栄養素摂取とは～		テキスト、動画、スポーツドリンク、		
8	コンディショニングのための食事 ～競技力向上のための栄養摂取～		テキスト、動画、サプリメント、医薬品		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			筆記用具、食事は毎日の事です。また競技力向上のためにはトレーニング・休養と同じようにきちんとした栄養摂取が必要となります。栄養素と食品の基本的な知識から、勝つためのスポーツ栄養学を学んでいきます。		
実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年				

科目名	基礎体力トレーニングⅠ			授業の方法		実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間	
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニング法の実際を学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、ランニングコースの確認(ランニング) トンネル8km 5分歩き5分走り(60%)			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
2	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下 速歩:70%以上ラン) トンネル8km			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
3	ランニングふれパコース ウォーク&ラン 姿勢の確認(姿勢作り、ポイント確認) ふれパ60分			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
4	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
5	ランニングサーキット(筋持久力+全身持久力 1度で2度美味しいトレーニング)			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
6	ウォーク&ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度60%以下:70%以上) NHMコース			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
7	下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれパ20分×2セット			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
8	ジョグ&ラン (運動強度60%以下:70%以上) ふれパ上り100mダッシュ			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
9	ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
10	ラン まだらお毛無山&希望湖 トレイルラン			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
11	ラン 信越五岳コース アパ〜学校(約8km) トレイルラン			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
12	ラン 信越五岳コース 蔵々〜アバ(約5km) 上りトレイルラン			(雨天時)ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
13	SAQトレーニング&ラン ふれパ(体育館)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
14	ラン&サーキットトレーニング ふれパ(体育館)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
15	室内での筋力トレーニング(JWSC)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
16	室内での筋力トレーニング(JWSC)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム(持ち物)ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。		
実務経験教員の経歴	各自自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年					

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	基礎体力トレーニングⅡ			授業の方法		実技	
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○			
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間		
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う						
学習目標 (到達目標)	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ランニング&下半身筋力トレーニング(ランジ20~30回) 40分間			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
2	ラン&ウォーク 上りのみ (スノーセット駐車場~上樽本公会堂5km) *体重の15%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
3	ランニング&下半身筋力トレーニング(ランジ20~30回) ふれパグランド 40分間 体重の20%重り			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
4	ラン&ウォーク 上りのみ(アパ分岐駐車場~アパまで 5km) *体重の20%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
5	ラン NHM13kmコース(キロ6分平均で=78分)			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
6	下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれパ20分×2セット			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
7	ラン&ウォーク 上り&下り (ハートランド妙高~国少まで 片道2.5km) *体重の15%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
8	室内での筋力トレーニング(JWSC)			JWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
9	ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース *体重の10%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
10	ラン&ウォーク 上り&下り (ハートランド妙高~国少まで 片道2.5km) *体重の20%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
11	ラン&シャトルラン系(ふれパグランド)			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
12	ランニングサーキットorSAQトレーニング(ふれパ体育館)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
13	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
14	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
15	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
16	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。			
実務経験教員の経歴	各自自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	基礎体力トレーニングⅢ			授業の方法		実技	
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○			
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間		
授業概要、目的、授業の進め方	フィールドで活動するために必要な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う						
学習目標 (到達目標)	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ランニング&下半身筋力トレーニング(ランジ20~30回) 40分間			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
2	ラン&ウォーク 上りのみ (スノーセット駐車場~上樽本公会堂5km) *体重の15%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
3	ランニング&下半身筋力トレーニング(ランジ20~30回) ふれパグランド 40分間 体重の20%重り			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
4	ラン&ウォーク 上りのみ(アパ分岐駐車場~アパまで 5km) *体重の20%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
5	ラン NHM13kmコース(キロ6分平均で=78分)			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
6	下半身サーキットJP系(下半身に特化した筋力トレーニングをしよう) ふれパ20分×2セット			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
7	ラン&ウォーク 上り&下り (ハートランド妙高~国少まで 片道2.5km) *体重の15%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
8	室内での筋力トレーニング(JWSC)			JWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
9	ラン 自分にあったペースを探ろう(運動強度70%以下) MURA10kmコース *体重の10%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
10	ラン&ウォーク 上り&下り (ハートランド妙高~国少まで 片道2.5km) *体重の20%の重り			(雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
11	ラン&シャトルラン系(ふれパグランド)			ふれあいパーク グランド (雨天時) ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
12	ランニングサーキットorSAQトレーニング(ふれパ体育館)			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
13	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
14	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
15	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
16	室内での筋力トレーニング(JWSC)上半身&体幹			ふれあいパーク体育館及びJWSCトレーニングルーム (持ち物) ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。			
実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年						

科目名	森林生態環境			授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ 山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	森林の減少や劣化は、地球環境問題の1つとなっています。それほど悪化してしまった森林の状況が今後も続いた場合何が起るのか？私たちの日々の暮らしに問題がでてくるのか？この授業では、森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学びます。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養います。				
学習目標 (到達目標)	森林生態系の仕組みや働きについて、説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス：森林を学ぶとは？（ブナ林を例に）		パワーポイント資料を使用。		
2	森林生態系（物質循環と食物連鎖について）		パワーポイント資料を使用。		
3	森林の構造（発達段階、階層構造とパッチ構造）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。		
4	森林の保水機能（土壌の層構造、三相組成、孔隙組成について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。		
5	森林の動態（森林の攪乱、遷移、更新について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。		
6	樹木の構造と機能（材、葉、シュート、花、種子について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。		
7	樹木の生活史戦略（種子、実生、繁殖について）		パワーポイント資料を使用。授業最初に前回授業内容についての「小テスト」を実施。		
8	期末テスト		授業内容全般から幅広く出題。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			この科目は森林生態学の基礎を学びます。授業の最初に前回授業の内容に関する小テスト(30点満点、18点以上合格)を実施します。復習をしっかりとるように。期末試験は授業内容全般から幅広く出題されます。出席率80%未満または飢渴試験60点未満は追試となります。		
実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号(地球環境科学)を取得。森林生態学の研究者として、4年間研究職(北大、金沢大等)および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林保全研究と地域活性化に2年間従事。森林生態学に関する研究論文(英文、査読付)5本以上。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	登山環境リテラシー			授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄/外部講師		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>ここでの「リテラシー」とは、『情報を理解し、整理し、活用する能力』のことを言います。この授業の目的の一番は、まずは立ち止まって、「考える」「疑問をもつ」ことを習慣にしてもらいたい、ということです。近年、時代の流れも、業界の変化も早まっていく中で、ガイドとして、登山のリーダーとして何らかの答えを提示する力が求められます。登山や関連する業界にアンテナを張って、課題を見つけられる、日頃から考えを深める、という習慣を1年生の時から身につけていきます。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>登山環境への課題を自ら抽出し、調べ、自分の考えを導き出すことができる。 フィールドでの活動、日常生活において自然環境への影響や、自分とのつながりを考えることができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>パワーポイント資料使用、その他配布資料。</p>				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス フィルターバブルを体験しよう		グループワーク		
2	SNSでの情報発信を考える		グループワーク		
3	山小屋の現状（白馬館・松沢）		グループワーク 講話：白馬館・松沢氏（オンライン）		
4	学生が選んだテーマについて、調査、ディベート、発表①		登山環境の問題について、グループディスカッション後、発表する。		
5	学生が選んだテーマについて、調査、ディベート、発表②		登山環境の問題について、グループディスカッション後、発表する。		
6	学生が選んだテーマについて、調査、ディベート、発表③		登山環境の問題について、グループディスカッション後、発表する。		
7	学生が選んだテーマについて、調査、ディベート、発表④		登山環境の問題について、グループディスカッション後、発表する。		
8	まとめ		グループワーク、個人ワーク、成果物提出		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>期末試験点数、出席率、学習意欲で総合的に評価 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>この科目は森林生態学の基礎を学びます。授業の最初に前回授業の内容に関する小テスト（30点満点、18点以上合格）を実施します。復習をしっかりとるように。期末試験は授業内容全般から幅広く出題されます。出席率80%未満または飢渴試験60点未満は追試となります。</p>		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

科目名	自然ガイド基礎			授業の方法	演習
担当教員	八木寛之/斎藤達也		実務授業の有無	○	
対象学科	自然ガイド・環境保全/ 山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	将来自然の魅力に人に伝えるガイドになるために必要な自然に関する深い知識と、解説方法についての基礎を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	季節ごとに特徴的な自然を題材として、その魅力を十分に伝えられるようになることを目標とする。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	参考書や図鑑などの教材については授業の中で適宜紹介する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	[導入～この魅力的な自然の世界へ] 「自然」って何だ？あなたにとって「自然」とは？まずは自問自		フィールド演習：清流公園（担当：八木）		
2	[植物群落モニタリング：人間と植生] 人間活動と植生の関わりは？潜在自然植生とは？		フィールド演習：ふれあいパーク（担当：八木）		
3	[キーワードはカクラン～河川生態系について～] 変化ありきの特殊な生態系である河川生態系の基礎を学ぶ。		フィールド演習：関川河川敷（担当：八木）		
4	[針葉樹林の歩き方] 森林伐採は自然破壊か？人と森の密接な関係について。		フィールド演習：演習林（担当：八木）		
5	[データで見る自然：森の測りかた] 自然を数値で把握する。森を測ってその価値を知る。		フィールド演習：妙高青少年自然の家（担当：八木）		
6	[水辺の生き物調査] 指標生物とは？水生昆虫等の捕獲調査及び水質判定。		フィールド演習：清流公園（担当：八木）		
7	[同定に物語を] 生物や自然環境の背景にある「物語」を語れるようになろう。		仮想自然ガイドのプレゼン資料作成（担当：八木）		
8	[まとめ・試験] 発表による試験。		パワーポイントを使った発表(個人)（担当：八木）		
9	[妙高の自然を学ぶ：草原] 人が働きかけないと衰退する草原生態系を学ぶ。小テスト。		フィールド演習：笹ヶ峰高原（担当：斎藤）		
10	[妙高の自然を学ぶ：河川敷と外来種] 河川と外来種の関係を学び、外来種対策を実践する。		フィールド演習：関川河川敷（担当：斎藤）。外来植物アレチウリの駆除活動を実施する。		
11	[妙高の自然を学ぶ：里山林①] 秋の里山の果実や落葉を収集し、同定する。小テスト。		フィールド演習：笹ヶ峰（担当：斎藤）		
12	[妙高の自然を学ぶ：里山林②] 秋の里山の果実や落葉を収集し、同定する。小テスト。		フィールド演習：苗名滝（担当：斎藤）		
13	[妙高の自然を学ぶ：里山林③] 秋の里山の果実や落葉を収集し、同定する。小テスト。		フィールド演習：高床山キャンプ場（担当：斎藤）		
14	[この地域の自然環境の売りは？①] 私だったらどこに注目してもらいたい？		グループワーク（担当：斎藤）		
15	[とりまとめ・課題制作] 妙高地域の自然環境の魅力と固有性を調べ、取りまとめる。		プレゼン資料作成（担当：斎藤）		
16	課題発表（最終試験 後期）		パワーポイントを使った発表(個人)（担当：斎藤）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業態度、適宜行う課題発表、および最終試験から総合的に評価する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			ひとくちに「自然環境」と言っても、対象・立場・目的…など様々な条件で、捉え方が変わってきます。これまでと違った視点で新しい発見をしていきましょう。また、その中で、自分の好き・得意なジャンルを見つけて伸ばしていきましょう。		
実務経験教員の経歴	八木：環境コンサルタント会社社員等として10年以上、その後独立起業し10年以上、自然環境の広報・啓発に関する業務に従事。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ガイド検定筆記試験対策	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法	講義
担当教員	遠藤 普		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ 山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	卒業年次の6月に受験する、公益社団法人日本山岳ガイド協会の第一次試験（筆記試験）に向けた対策として、教本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門的知識分野について対策授業を行う。				
学習目標 (到達目標)	ガイドに必要な基礎的知識・専門的知識・安全管理技術などに関する理解を深め、筆記試験に合格する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編 『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	【基礎的知識】第1章 基礎的知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
2	【基礎的知識】第1章 基礎的知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
3	【基礎的知識】第2章ガイド業務に関する知識と法律、第3章自然解説技術の基礎		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
4	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
5	【専門知識】第1章ルートガイディングに関する知識		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
6	【専門知識】第2章ガイドに必要なロープワーク、第3章ガイドの安全管理技術		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
7	【専門知識】第5章コミュニケーションの技術、第6章ガイド業務とは、第7回までの授業内容の再確認		パワーポイント資料とテキストを使用した学習		
8	基礎的知識及び専門知識の範囲内での模擬試験		授業内容全般から幅広く出題		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び小テスト・学期末テストにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			本授業は筆記試験本番に向けての知識ベース作りとなるので、授業以外の時間も使い、しっかりと自己学習をすること。		
実務経験教員の経歴	国際基督教大学教養学部卒業、国際自然環境アウトドア専門学校自然環境教育学科卒業。卒業後、アウトドアスポーツや自然ガイドの他、地域観光協会、地域の自然体験企画会社など。日本山岳ガイド協会認定・自然ガイド				

科目名	地球環境科学			授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/ 山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	地球や地域の環境をとりまく諸問題と、その解決に向けた社会、経済的な取組を幅広く学ぶ。授業では、毎回学生が決定したテーマについて発表し、その後、発表した内容やテーマについてのディベートを行う形式とし、自ら考え、他者に意見を述べるプロセスを通して「伝える」スキルの向上を目指す。				
学習目標 (到達目標)	①地球環境や地域の問題を当事者の視点から身近な問題として理解できる。②豊かな自然やその恵みにあずかっている私たちの暮らしが、今後もよりよい状態で続いていくために何をすべきなのか、何ができるのかについて自ら考えることができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	パワーポイント資料を学生が作成し発表。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	授業ガイダンス、環境問題グループワーク、発表テーマの決定(各学生)		地球環境問題について、各自まとめ、グループディスカッション後、発表する。		
2	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート①		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
3	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート②		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
4	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート③		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
5	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート④		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
6	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑤		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
7	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑥		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
8	学生が選んだテーマについて、調べた内容をppt等で発表、ディベート⑦		地球環境問題に関するテーマを各自決定し、パワーポイントでまとめた内容を発表する。聴講者は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			地球環境問題の中から、各自テーマを決定し、パワーポイントにまとめた内容を発表してもらいます。聴講側となった学生は「コメントシート(A5)」に自分の意見をまとめ記入し、グループ内で発表および討論してもらいます。		
実務経験教員の経歴	北海道大学大学院にて博士号(地球環境科学)を取得。森林生態学の研究者として、4年間研究職(北大、金沢大等)および保全プロジェクトに従事。また、自然系博物館で森林保全研究と地域活性化に2年間従事。森林生態学に関する研究論文(英文、査読付)5本以上。				

科目名	キャンプ実習			授業の方法	実習
担当教員	小野 彰太、吉田 理史		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・バックパッキングに必要な技術の習得 ・コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する ・現時点での自分の力量・課題を明確にする 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	山と渓谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、アイスブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成		講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）		
2	実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク）		講義、実地演習、振り返り・グループワーク		
3	野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー		実地演習、グループワーク、振り返り		
4	野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括		実地演習、ふりかえり、レポート作成		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わないとします。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。		
実務経験教員の経歴	<p>下記教員が、野外活動の基礎技術の教育を行う。</p> <p>小野：i-nac生涯学習室担当。企業のチームビルディングや様々な組織キャンプ（対象：児童、大学生、社会人、親子）、アウトドアスポーツ体験（ kayak等）での企画・運営歴4年。国内アウトドアメーカー（モンベル）でアウトドア用品の販売に2年間従事。</p> <p>吉田：野外教育の企画・運営・指導を行う株式会社信州アウトドアプロジェクト所属、（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員、企業のチームビルディングや様々な組織キャンプ（対象：児童、大学生、社会人、親子）指導歴10年以上。</p>				

②

科目名	森林管理実習			授業の方法	実習
担当教員	余頃友康		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようにするため、「林業・木材製造業労働災害防止協会」が発行する教科書に即して、学科および実技の講習を行う。				
学習目標 (到達目標)	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようになること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	チェーンソー作業の安全ナビ、安全な刈払機作業のポイント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	伐木造材講習（3日間の内、1日目）		教科書に即して学科および実技の講習を行う。		
2	伐木造材講習（3日間の内、2日目）		教科書に即して学科および実技の講習を行う。		
3	伐木造材講習（3日間の内、3日目）		教科書に即して学科および実技の講習を行う。		
4	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育		教科書に即して学科および実技の講習を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
発表資料の内容、出席率、授業姿勢、授業内での積極的な発言等、総合的に評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			森林を管理するためには、チェーンソーや刈払機の使用は不可欠です。 これらの器具の適切な利用方法、作業時の安全確保について理解することは非常に大切です。		
実務経験教員の経歴	長野県等における林業の現場に24年間従事。現在、森林整備や伐採に関する事業や森林環境についての教育を展開。本科目では、林業現場におけるチェーンソーや刈払機の使用方法や森林整備に関する教育を行う。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	アルプス登山実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/川合陽介/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアーツ/ キャンプビジネス/自然ガイド ・環境保全/自然環境保全 /山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、 授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイドングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを体験し、今後の冬山の実習に備える。				
学習目標 (到達目標)	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	学校で打ち合わせ・準備		行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し		
2	3泊4日の山行（立山を予定）		山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり		
3					
4					
5					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			日中の最高気温は10度以下、最低気温にあってはマイナスになることも考えられます。また10月初旬で雪が降ることもありますので、防寒具についてはしっかりとしたものを持ってきてください。 (装備) ザック、登山靴、レインウェア、防寒具(フリース、ダウン等)、着替え、ニット帽、グローブ、シュラフ、マット、ヘッドランプ(電池予備含む)、コッヘル、カトラリー、地図、コンパス、常備薬、サングラス、トイレットペーパー、メモ帳、ボールペン、時計等 別紙しおり参照 3年生より事前ガイダンスあり。		
実務経験教員の経歴			中野豊和：有限会社 スリーウェイナビゲーション(1997～2006年)、インフィールド代表(個人事業、2006年～現在) ガイド歴20年以上。 渋谷暉：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅠ、日本雪崩ネットワークレベル1修了、ウィルダネス・ファーストエイド50h修了		

科目名	雪上スポーツ		授業の方法	実習
担当教員	服部正秋/小野彰太/外部講師		実務授業の有無	○
対象学科	野外教育・アウトドア/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	1	開講時期 後期
必修・選択	必修	単位数	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。			
学習目標 (到達目標)	アルペン：各自の技術レベルに応じて設定。 ①ブルボーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ②バルターンでスキー場の中級者コースを滑走できる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料	事前に「受講調査票」を配布。その他資料を適宜配布。			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考	
1	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 		<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：杉ノ原スキー場 ■活動班：習得レベル別（下記4段階）に分けられた班ごとに活動ア、はじめて。 イ、ブルボーゲンでスキー場の初級者コースを滑走できる。 ウ、バルターンでスキー場の中級者コースを滑走できる。 エ、スキー場の上級者コースで安定した滑走ができる。 ■装備：□スキー □ブーツ □スキーポール □雪上活動用ウェア（厚手） □帽子（ニット）<input checked="" type="checkbox"/> □グローブ □ゴーグル □昼食 □日焼け止め等その他必要なもの ■チケット手配に関して *スキー場での3日間は、杉ノ原スキー場のシーズンパスを持っている学生（もしくはスーパーシーズン券等持っていて使用できる学生）はそれを使ってください。 *また19歳の学生は杉ノ原スキー場が平日リフト無料になります。（平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれ） 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 		<ul style="list-style-type: none"> ※対象者は、19歳になる前でも利用可能登録がありますので、該当する学生で利用したい学生は、実習前までに必ず登録しておいてください。 https://majibu.jp/yukimaji19/pc/about/ *シーズンパスを持っていない学生、または20歳リフト券無料に該当しない学生に関しては、1日券×3日分を当日、自分でスキー場で購入してもらいます。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■班別に講習 ■スキー場出発（公用車に積み込み、乗込み） ■i-nac着・事務連絡後解散 		<ul style="list-style-type: none"> ■実施場所：黒姫XCスキー場 ■クロスカントリースキーの道具はレンタルをこちらで手配します。 ■装備：□ ウインドブレーカーもしくはレインウェアのような薄手の上下ウェア（防寒対策として厚手のウェアも念のため持ってきてください） □着替え（Tシャツ、インナー等 天気が良ければかなり汗をかきます） □サングラス（ゴーグルだともります） □手袋（薄手の物、登山用グローブ、毛糸の手袋、作業用グローブなど） □日焼け止め □昼食 □飲み物等 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ■i-nac出発（公用車に積み込み、乗込み） ■クロスカントリーコースにて講習 ■i-nacにて解散 		<ul style="list-style-type: none"> ■受講生は別紙、「受講調査票」を提出してください。 ■アルペンスキーではグレンデでのスキー基本的技術を学ぶので、可能な限りファットスキー、テレマーク以外のスキーを持ってきてください。 ■装備の準備について不安がある学生は早めに相談してください。安全管理上、装備が不十分の学生の受講は認めません。 ■特に初心者には、ヘルメットの着用を強く推奨します。 	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意	
出席率、授業姿勢、実技習得レベル等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				
実務経験教員の経歴	<ul style="list-style-type: none"> ■服部：クロスカントリースキー競技歴30年以上、国体出場10回 ■田辺：スキー歴30年以上、指導歴10年以上 ■外部講師：スキースクール講師 			

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/酒井啓子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標 (到達目標)	<p>① 積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、登山ガイドステージⅡの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション <p>② 積雪期のバックカントリーエリアで安全に活動するための基礎的なスキルを習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎 ・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ <p>③ バックカントリーツアーを体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京新聞 増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト http://nadare.jp/				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	積雪安定性評価（フィールド）		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。		
2	(AM) ビーコン検索テスト、またはセルフレスキューシナリオトレーニング (PM) 翌日からのツアープランニング		登山実技で教わったビーコン検索の手順を復習しておくこと。		
3	バックカントリーツアー		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。		
4	バックカントリーツアー		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、バックカントリーを滑走する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			装備 <input type="checkbox"/> スキー、スノーボード <input type="checkbox"/> 登行用の装備（ツアー用ビンディング・シール・スノーシュー・かんじき等） <input type="checkbox"/> 上記以外でバックカントリーツアー・雪上でのキャンプに必要な個人装備 （ザック・ウェア・手袋（インナー・アウター）・ゴーグル・サングラス・ビーコン・プローブ・ショベル等） ※ スキーでの参加者はできるだけシール登行ができるよう装備を整えてください。スノーボードの登行はスノーシューを想定しています。装備について不安な点は担当教員まで相談してください。		
実務経験教員の経歴			中野豊和：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者レベル2、日本テレマークスキー協会 公認指導員、有限会社 スリーウェイナビゲーション（1997～2006年）、インフィールド代表、ガイド歴20年以上 酒井啓子：日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ、日本山岳ガイド協会認定スキーガイドⅠ、長野県公認 信州登山案内人、長野県公認 戸隠登山ガイド組合ガイド、戸隠神社公認戸隠山三十三窟ガイド、日本赤十字救命救急員、NPO法人日本雪崩ネットワーク講師、雪崩業務従事者レベル1(JAN)、登山&BCガイド ことりウム代表		

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	バックカントリー実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプ ビジネス/自然ガイド・環境保全/ 自然環境保全/アウトドアインストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標 (到達目標)	<p>①積雪期におけるルートナビゲーション及びプランニングを実施し、自然ガイドステージIIの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランニング 登山計画書の作成 気象判断 行動判断 ナビゲーション <p>② 積雪期のバックカントリー（登山）で安全に活動するための基礎的なスキルを習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪崩地形の認識、積雪の観察と積雪安定性評価の基礎、 ・グループマネジメント、セルフレスキュー等について学ぶ。 <p>③バックカントリーツアーの実際を体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妙高周辺のフィールドにおける学生主導のバックカントリーツアーを実施する。 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	東京新聞 増強改訂雪崩リスク軽減の手引き NPO法人日本雪崩ネットワークウェブサイト http://nadare.jp/				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	雪崩地形での行動判断 積雪安定性の評価 等		テキストをもとに雪崩に関するリスクとその軽減についての座学		
2	バックカントリー滑走のための基礎知識 セルフレスキュー（ビーコン捜索）		テキストをもとに雪崩に関するリスクとその軽減についての座学		
3	ツアーのプランニング 装備確認及び準備		実施場所の選択、リスクアセスメント、計画書の作成 必要装備の準備		
4	バックカントリーツアー		雪崩のリスクマネジメントを行いながら、スキー、スノーボード、スノーシューを用いてバックカントリーでの活動を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			装備 <input type="checkbox"/> スキー、スノーボード <input type="checkbox"/> 登行用の装備（ツアー用ビンディング・シール・スノーシュー・かんじき等） <input type="checkbox"/> 上記以外でバックカントリーツアー・雪上でのキャンプに必要な個人装備 （ザック・ウェア・手袋（インナー・アウター）・ゴーグル・サングラス・ビーコン・プローブ・ショベル等） ※ スキーでの参加者はできるだけシール登行ができるよう装備を整えてください。スノーボードの登行はスノーシューを想定しています。装備について不安な点は担当教員まで相談してください。		
実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドが担当。登山ガイド・山岳ガイド・スキーガイドなど実務経歴概ね5年以上。安全管理を行いながら、積雪期の低山を案内できるようにすることを目標として指導する。				

科目名	アウトドアスポーツ実習（フィットネス）			授業の方法	実習
担当教員	丸山さき／服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>①日常生活に取り入れやすいノルディックウォーキングやヨガの知識や実際に学び、自身の健康増進のフィットネスとして理解を深める。</p> <p>②アウトドアスポーツの中で、人気が高まっているトレイルランニングの知識や技術を学ぶ事で、これからのアウトドアスポーツ業界の動向を深めると共に、実際にレースに参加しトレイルランニングの魅力を学ぶ。</p> <p>③現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。</p>				
学習目標（到達目標）	昨今の現代社会における「ライトアウトドアスポーツ」のニーズの理解（レポート、実践）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	斑尾トレイルランニングマップ、トレイルランニングDVD、日本ノルディックフィットネス協会アクティビティリーダーテキスト、ノルディックポール				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
	<p>【1日目】トレイルランニング概要 ①実際にトレイルを走ってみよう!! (トレイルで実践的なテクニックを学ぶ) (26kmコースを下見します)</p> <p>②How toトレイルランニング (身体の使い方/上り下りの走り方/トレーニング方法/レースでの心構え)</p> <p>【2日目】ヨガ *9:30~11:30 ヨガ実践とヨガの動向【市場】について *11:30~13:00 昼食 現代社会での健康問題について。</p> <p>【3日目】ノルディックウォーキング概要 (ノルディックウォーキングAL養成講座) ①ノルディックウォーキングの知識と実際 (ヘルスレベル・フィットネスレベル・スポーツレベル) ②ノルディックフィットネスの実際 (ウォーミングアップ・クールダウン・筋トレ・コーディネーション)</p> <p>【4日目】・レースデビュー!! トレイルランニングレースに出場しよう!! 斑尾トレイルランニングレースに参加し、レース、イベントの雰囲気を実際に肌で感じながら思いっきり楽しもう!また自身の体力の限界を知ることで今後の身体づくりの必要性を知ろう!</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・短パンもしくはスパッツ（七分・ロングなんでも良い） ・TシャツもしくはロングT・ランニングでも可（化繊） ・日よけ（帽子・サンバイザー・サングラスなど） ・トレイルランニングシューズ（もしくはランニングシューズ） ・トレイル専用小型リュックサック（もしくは小型のサックできるだけ小さいもの） ・くま鈴（ある人は持ってきてください） ・行動食（小型ザックに入れていきます） ・水分（トレラン中に補給するもの。終了後に補給するもの2つあったほうが良い） ・防寒着（薄手のウインドブレーカー、レインジャケットなど） ・着替え等（多少の雨でも行いますし、汗をかくと思います。終わった後の着替え） ・虫除け（なくてもいいですが、あったほうがいい） 	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年以上、当授業実務経歴8年 ノルディックフィットネス：国際ノルディックウォーキング連盟ナショナルトレーナー ヨガ：米国ヨガアライアンス イシュタヨガ認定インストラクター（E-RYT500）				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	アウトドアビジネス実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師/服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	アウトドアビジネスの実際について学び、自ら事業企画書を作成することを通して、「アウトドア業界で働く」「アウトドアを仕事にする」ことについての理解を深め、意欲を高める。				
学習目標 (到達目標)	昨今の現代社会におけるアウトドア業界のニーズについて理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	各企業資料・各企業ホームページ・外部講師資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アウトドアを仕事にする		業界に関する講話・グループワーク		
2	アウトドアを仕事にする		業界に関する講話・グループワーク		
3	* アウトドア業界をとりまく日本の社会情勢について 人口統計、日本レジャー白書、訪日観光客統計など) * 事業企画書の作成 (アイデアを具現化するために) * 仕事に関する価値観、興味関心の明確化		グループワーク・事業企画書作成		
4	* 事業企画書の作成 * 事業企画プレゼンテーション		グループワーク・事業企画書作成		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及びレポートにより評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			【事前課題・事後レポート】 ①現時点での自分の進路や将来的な職業に関する展望を明確にする。 ②ケーススタディで学ぶ各社について、Webサイトを中心に以下の観点で情報収集する。 ・各社の事業は何を目的として行われているのか。 ・各社の商品、サービスはどのようなものであり、顧客に対してどのような価値を提供するか。 ・他の企業にはない各社の特徴や強みは何か。 ③実習後には上記①～②、および本実習での学習内容をもとにしたレポート課題を課します。		
実務経験教員の経歴					

②

科目名	リスクマネジメント			授業の方法	実習
担当教員	大澤実/西海太介		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/山岳 プロ/アウトドアインストラクター/キャンプ ビジネス/環境保全	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	<p>野外での活動時に生じる様々な「リスク」について、把握、分析し適切にコントロールするために必要なスキルを身に付けることを目的とする。</p> <p>本授業では、リスクに対する個別の対処法（搬送法、救急法等）の習得ではなく、状況把握や状況判断を適切に行い、事故を予防するための一連のプロセスについて学ぶ。また、自然界での危険な動植物等への知見を広め、その対策や対処法等を学ぶ</p>				
学習目標 (到達目標)	自分自身と他者のリスクの「発見」「把握」「分析」「対処」の違いを理解すること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	外部講師の用意した資料を使用				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
	<p>【1日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 教室での講義、学校周辺のフィールド（清流公園等）でのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのアセスメントについて学びます。</p> <p>【2日目】 「危険生物対策について」講義</p> <p>【3日目】 「リスクの発見・把握および評価・分析」 1日目と同様の内容を実施します。 「リスクのコントロール」 教室での講義、学校周辺のフィールドでのイニシアティブゲーム等の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。</p> <p>【4日目】 沢登り（予定）の実技を通してリスクのコントロールについて学びます。</p>			<p>※天候等によりスケジュールを変更することがあります</p> <p>※毎日野外で活動できる服装で参加してください。</p> <p>※4日目については昼食を持参してください</p> <p>*筆記用具</p>	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出書類（レポート）により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	各講師の事業にて実務経験5年以上、当授業実務経験5年 一般社団法人アウトドアソリューション 一般社団法人セルズ環境デザイン研究所				

科目名	登山実技Ⅰ	授業形態		対面授業のみ		授業の方法		実技	
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○					
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	通年				
必修・選択	必修	単位数		時間数	128時間				
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリーなどを含む幅広い山岳活動ができるようになる。3年間の目標である登山ガイドの資格取得のために、野外活動の基礎であるナビゲーションスキル・ロープワークを習得することを目的とする。								
学習目標 (到達目標)	山での活動を不安なく自立して行うことができるようになり、さらにクライミング技術や自然観察の知識を身につける。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	国土地理院2万5千分1地形図・登山地図								
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考					
1	フリークライミング：ギアの説明・ロープの結び・ビレイ操作・トップロープクライミング・ボルダリング			学校ウォールでのクライミング 講師：丸木太・吉田美栄・川合陽介・山岳プロ学科3年生					
2	フリークライミング：トップロープクライミング・ボルダリング・懸垂下降			学校ウォールでのクライミング 講師：丸木太・吉田美栄・川合陽介・山岳プロ学科3年生					
3	登山入門 3年生企画の登山ツアー			無積雪期日帰り登山の実践 講師：磯谷優・吉田美栄					
4	フリークライミング：外岩でのトップロープクライミング・ビレイ操作・懸垂下降など			外岩（物見岩）でのクライミング 講師：竹石幸司・吉田美栄・川合陽介・山岳学科3年生					
5	地図と計画（座学） 地図を用いた登山計画の仕方			地図上での地形の理解、概念図の書き方とその必要性について 講師：中野豊和・吉田美栄					
6	山岳オリエンテーション 日本および海外でも活躍されているガイドからの講話を聴き、仕事についての職業感を学ぶ。			講話とロープワーク 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮・渋谷暉					
7	登山ガイドツアー プロガイドによる登山ツアー			ガイディングのイメージ・自然解説の重要性の理解 講師：高木律子・吉田美栄					
8	ナビゲーション基礎（笹ヶ峰山） 読図能力の向上			1/25,000の地形図と実際の地形の理解 講師：中野豊和・吉田美栄・川合陽介					
9	沢登り入門 初級の沢登り体験			黒沢で沢登りの基本、注意点について学ぶ 講師：渋谷暉、吉田美栄					
10	歩荷トレーニング(20kg) 20kgの荷物を背負っての登山			現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋谷暉・吉田美栄・川合陽介・小西審嵐					
11	トレイルランニング			信越トレイル 講師：服部正秋					
12	ナビゲーション実践（南葉山） ナビゲーションスキルの向上			登山道にとらわれず地形図から地形を想像して現在地を把握する。 講師：中野豊和・吉田美栄・川合陽介					
13	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など			講話、グループワーク 講師：近藤謙司					
14	藪漕ぎ入門（大平山周辺） ナビゲーションスキルの向上			道の無い山において安全かつ効率的なルートを選択し、現在地把握・プランニング・ルートの維持を行う。 講師：中野豊和、吉田美栄					
15	冬期登山入門 3年生企画の登山ツアー			積雪期日帰り登山の実践 講師：川合陽介・吉田美栄					
16	スキー技術Ⅰ			信越トレイル 講師：服部正秋					
17	積雪期ナビゲーション（他学科合同）			講話、積雪期ナビゲーション 講師：中野豊和、松井茂・川合陽介					
18	BC入門 積雪期のナビゲーションスキルの向上			積雪期ナビゲーション、バックカントリースキー、またはスノーシュー体験。講師：中野豊和・吉田美栄					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意					
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。					
実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 野外活動に必要な基礎を固めることを目標として指導する。								

科目名	登山実技Ⅱ	授業形態		対面授業のみ		授業の方法		実技	
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○					
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年				
必修・選択	必修	単位数		時間数	256時間				
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなども含めた幅広い山岳活動ができるようになる。また、3年次の認定ガイド資格取得にむけて、ナビゲーションスキルやガイディングテクニックを学んでいく。								
学習目標 (到達目標)	様々なスタイルの山に自分で登れるようになる。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど								
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考					
1	残雪期登山 積雪期における歩行訓練・幕営技術			雪上における初歩的な技術を習得 講師：中野豊和・吉田美栄					
2	雪上訓練 ナビゲーション・歩行・滑落停止・アンカー構築・生活技術など			ピッケル・アイゼンを使用した歩行及び1泊2日の幕営 講師：黒田誠・増本亮・上田幸雄・清原翔大					
3	リムーバブルプロテクション講習			カムやナッツの仕組みやセッティングの仕方を習得 講師：井上大助・安達真貴					
4	セルフレスキュートレーニング 登山道上でのレスキューとリーダーシップ			講習とシナリオトレーニング 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮					
5	テーピング講座			テーピング講座(ケガの予防と保護) 講師：ニューハレックス/近江祐介					
6	沢登り 生活技術・渡渉			沢での生活技術や、渡渉・歩き方・ロープワークなどの基礎的な技術を習得。講師：竹石幸司・渋沢暉					
7	高山植物基礎			高山植物への知識・理解・興味を養う 講師：高木律子・吉田美栄					
8	沢登り 生活技術・ナビゲーション			遡行図・地形図を照らし合わせ現在地を把握 講師：川崎拓兵・渋沢暉					
9	歩荷トレーニング(25kg) 25kgの荷物を背負っての登山			現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・川合陽介・小西審胤・吉田美栄					
10	マルチピッチクライミング実践(3日間)			マルチピッチクライミングの実践 講師：加藤直之・清原翔大					
11	秋山インプリ 秋山での自分の得意分野を活かしたインタープリテーション			概要作成→事前準備→本番→フィードバック→ブラッシュアップでスキルを向上。 講師：高木律子・川合陽介					
12	ナビゲーション実践 ナビゲーション能力の向上			視界が悪い中でのビバークを含めたナビゲーション 講師：中野豊和・渋沢暉					
13	上高地ジオツアー			山の地史、山を構成する地質について学び、山岳環境への理解を深める。講師：田村茂樹・吉田美栄					
14	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など			講話、グループワーク 講師：近藤謙司					
15	登山ガイドのコンプライアンス 職業倫理・法的責任とマナー			講話・グループワーク 講師：長岡健一					
16	スキー技術Ⅱ			バックカントリースキーを視野に入れたゲレンデでのスキー技術練習 講師：中野豊和					
17	雪の安全管理(日本雪崩ネットワーク・アドバンスセーフティキャンプ) 座学・ビーコン			気象観測・積雪観察により雪崩リスクを予測し、今後の行動指針を考えることができるようになる。 講師：中野豊和					
18	雪の安全管理(日本雪崩ネットワーク・アドバンスセーフティキャンプ) ビット・地形			雪崩に対するリスク管理・ビーコン捜索・積雪観察など。講師：中野豊和					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意					
出席率と授業態度及び登山報告書や課題の提出の他、安全・確実に山行をこなし、必要な技術を積極的に吸収、かつ実践できるかどうかを総合的に評価する。またグループ行動を円滑に行うことができ、役割を理解して果たせることも重視する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。 毎回、報告書の提出を義務とします。					
実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経験概ね10年以上。 様々なスタイルで山に登れるようになることを目標として指導する。								

科目名	登山実技Ⅲ (B)	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなども含めた幅広い山岳活動ができるようになる。また登山ガイド資格に見合った、ナビゲーションスキルやガイディングテクニックを身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	残雪期登山 積雪期における歩行訓練・幕営技術		雪上における初歩的な技術を習得 講師：中野豊和・吉田美栄		
2	雪上訓練 ナビゲーション・歩行・滑落停止・アンカー構築・生活技術など		ピッケル・アイゼンを使用した歩行及び1泊2日の幕営 講師：黒田誠・増本亮・上田幸雄・清原翔大		
3	登山ガイド試験対策（座学1日、検定内容実技1日）		6/18の一次試験対策、および、実技検定の項目について。講師：菅野由起子、吉田美栄		
4	セルフレスキュー基礎 登山道上でのレスキューとリーダーシップ		講習とシナリオトレーニング 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮		
5	テーピング講座		テーピング講座（ケガの予防と保護） 講師：ニューハレックス/近江祐介		
6	登山道整備講習		実際に鎖の付け替えなどを経験し、登山道整備とその課題について学ぶ 講師：井上大助・安達正貴		
7	沢登り 生活技術・渡渉		沢での生活技術や、渡渉・歩き方・ロープワークなどの基礎的な技術を習得。講師：竹石幸司・渋沢暉		
8	歩荷トレーニング(30kg) 30kgの荷物を背負っての登山		現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・川合陽介・小西審胤・吉田美栄		
9	ガイド業務		登山ガイドのツアー実施までの流れと顧客への配慮等について。講師：川合陽介、吉田美栄		
10	ナビゲーション実践 ナビゲーション能力の向上		視界が悪い中でのビバークを含めたナビゲーション 講師：中野豊和・渋沢暉		
11	秋山インタープリテーション 秋山でのガイディング実践		事前に配布する資料に目を通す。事前に配布資料を作成する。 講師：上野真一郎・川合陽介		
12	登山ガイドのロープワーク 基本と実践的確保		実践的なロープワークの習得 講師：長岡健一・川合陽介		
13	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など		講話・グループワーク 講師：近藤謙司		
14	気象実践		北信越周辺の気象観察、グループワーク 講師：笠原久司、川合陽介		
15	八ヶ岳冬期登山（3日間）		低温下での登山技術、生活技術の体験・習得、環境理解。講師：渋沢暉、川合陽介		
16	バックカントリールートガイディング実践1 学生によるプランニング		気象観測・積雪観察、雪崩リスクの予測と回避行動。講師：中野豊和・酒井啓子		
17	バックカントリールートガイディング実践2 学生によるプランニング		気象観測・積雪観察、雪崩リスクの予測と回避行動。講師：中野豊和・酒井啓子		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び登山報告書や課題の提出の他、安全・確実に山行をこなし、必要な技術を積極的に吸収、かつ実践できるかどうかを総合的に評価する。またグループ行動を円滑に行うことができ、役割を理解して果たせることも重視する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。 毎回、報告書の提出を義務とします。		
実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになることを目標として指導する。				

科目名	登山実技Ⅲ (A)	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実技
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256時間
授業概要、目的、授業の進め方	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、岩場の登攀やバックカントリースキーなども含めた幅広い山岳活動ができるようになる。また登山ガイド資格に見合った、ナビゲーションスキルやガイディングテクニックを身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	雪上訓練 ナビゲーション・歩行・滑落停止・アンカー構築・生活技術など		ピッケル・アイゼンを使用した歩行及び1泊2日の幕営 講師：黒田誠・増本亮・上田幸雄・清原翔大		
2	登山ガイド試験対策(座学1日、検定内容実技1日)		6/18の一次試験対策、および、実技検定の項目について。講師：菅野由起子、吉田美栄		
3	バリエーション入門		バリエーションルートでの装備、行動、ルート選択を学び、今後の授業につながる山行とする 講師：黒田誠・増本亮		
4	セルフレスキュー基礎 登山道上でのレスキューとリーダーシップ		講習とシナリオトレーニング 講師：佐々木大輔・加藤直之・増本亮		
5	テーピング講座		テーピング講座(ケガの予防と保護) 講師：ニューハレックス/近江祐介		
6	登山道整備講習		実際に鎖の付け替えなどを経験し、登山道整備とその課題について学ぶ 講師：井上大助・安達正貴		
7	クライミングレスキュートレーニング		岩場、山岳環境でのリーダー・フォロワーとしての動き、および様々なレスキューシチュエーションについて学ぶ。 講師：加藤直之・清原翔大・黒田誠		
8	歩荷トレーニング(30kg) 30kgの荷物を背負っての登山		現状の体力を把握し今後の目標を設定 講師：渋沢暉・川合陽介・小西審胤・吉田美栄		
9	バリエーション実践(3日間)		標高の高い山でのバリエーション登山の実践 講師：加藤直之・増本亮		
10	ナビゲーション実践 ナビゲーション能力の向上		視界が悪い中でのピバークを含めたナビゲーション 講師：中野豊和・渋沢暉		
11	秋山インタープリテーション 秋山でのガイディング実践		事前に配布する資料に目を通す。事前に配布資料を作成する。 講師：上野真一郎・川合陽介		
12	登山ガイドのロープワーク 基本と実践的確保		実践的なロープワークの習得 講師：長岡健一・川合陽介		
13	世界のガイディング 海外でのガイディング事例・高所登山・雪崩など		講話・グループワーク 講師：近藤謙司		
14	気象実践		北信越周辺の気象観察、グループワーク 講師：笠原久司、川合陽介		
15	アイスクライミング体験(3日間)		八ヶ岳周辺でのアイスクライミングを体験し、今後の活動の幅を広げる 講師：加藤直之・増本亮		
16	バックカントリールートガイディング実践1 学生によるプランニング		気象観測・積雪観察、雪崩リスクの予測と回避行動。講師：中野豊和・酒井啓子		
17	バックカントリールートガイディング実践2 学生によるプランニング		気象観測・積雪観察、雪崩リスクの予測と回避行動。講師：中野豊和・酒井啓子		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び登山報告書や課題の提出の他、安全・確実に山行をこなし、必要な技術を積極的に吸収、かつ実践できるかどうかを総合的に評価する。またグループ行動を円滑に行うことができ、役割を理解して果たせることも重視する。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していきます。毎回予習～実践～復習を行うようにしてください。 毎回、報告書の提出を義務とします。		
実務経験教員の経歴	各授業項目をその分野に秀でたガイドやクライマーが担当。登山ガイド・山岳ガイド・国際山岳ガイド・スキーガイド・クライマーなど実務経歴概ね10年以上。 安全管理を行いながら、山に人を案内できるようになることを目標として指導する。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山行プランニング	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	目標地点に立ち、安全圏に無事還るという登山の目的を達成するために、あらかじめ手段や行動内容を決めたものが登山計画。事前に綿密な計画を立てることの重要性を理解するとともに、下山後に登山を評価し次の登山につなげ、一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していくことを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	山行の目的や意義を理解し、それに見合った計画を立案できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「4/20-21 残雪期登山」プランニング、準備		グループワーク 「残雪期登山」計画書提出		
2	「4/27-28 雪上訓練」プランニング、準備		グループワーク (3年生と合同) 「雪上訓練」計画書提出		
3	リムーバブルプロテクションメンテナンス		グループワーク		
4	「5/22-26 残雪期登山実習」プランニング		グループワーク 「残雪期登山実習」計画書提出		
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」予習、準備		グループワーク		
7	「6/22-23 沢登りⅠ(生活技術・渡渉)」プランニング、準備		グループワーク 「沢登りⅠ」「高山植物基礎」計画書提出		
6	「7/6/8 沢登りⅡ(生活技術・ナビゲーション)」プランニング 「6/26-27 高山植物基礎」プランニング、準備		グループワーク 「沢登りⅡ」計画書提出		
8	「7/24-26 マルチピッチクライミング実践」プランニング 「7-6-7 沢登りⅡ」準備		グループワーク 「マルチピッチクライミング実践」計画書提出		
10	「10/12-13 秋山インタープリテーション」プランニング		個人ワーク		
9	「10/19-20 ナビゲーション実践」プランニング、準備		グループワーク 「ナビゲーション実践」計画書提出		
11	「10/26-27 上高地ジオツアー」プランニング、準備		グループワーク 「ビバーク訓練」計画書提出		
12	「10/29-30 地質で見る上高地」プランニング		グループワーク (3年生と合同) 「地質」計画書提出		
13	「1/15-19 積雪期登山実習」プランニング		グループワーク		
14	「1/15-19 積雪期登山実習」プランニング		グループワーク 「積雪期登山実習」計画案提出①		
15	「1/15-19 積雪期登山実習」プランニング		グループワーク 「積雪期登山実習」計画案提出②		
16	次年度「登山入門」プランニング、ガイダンス準備		グループワーク		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			役割分担をして効率的に作業を進めてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

科目名	山行プランニング (B)	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	目標地点に立ち、安全圏に無事還るといふ登山の目的を達成するために、あらかじめ手段や行動内容を決めたものが登山計画。事前に綿密な計画を立てることの重要性を理解するとともに、下山後に登山を評価し次の登山につなげ、一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していくことを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	山行の目的や意義を理解し、それに見合った計画を立案できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「4/20-21 残雪期登山」プランニング、準備		グループワーク 「残雪期登山」計画書提出		
2	「4/27-28 雪上訓練」プランニング、準備		グループワーク (3年生と合同) 「雪上訓練」計画書提出		
3	「5/22-26 山岳技術強化実習」プランニング		個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」計画案提出①		
4	「5/22-26 山岳技術強化実習」プランニング		個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」計画案提出②		
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」予習、準備		グループワーク		
6	「6/22-23 登山道整備」プランニング、準備		グループワーク、個人ワーク 「登山道整備」計画書提出		
7	「7/6/8 沢登りII (生活技術・ナビゲーション)」プランニング 「9/11-13 ガイド業務」プランニング		グループワーク 「沢登りII」計画書提出		
8	「7-6-7 沢登りII」準備		グループワーク 「マルチピッチクライミング実践」計画書提出		
9	「10/12-13 ナビゲーション実践」プランニング		グループワーク 「ナビゲーション実践」計画書提出		
10	「10/19-20 秋山インタープリテーション」プランニング、準備		グループワーク 「秋山インタープリテーション」計画書提出		
11	「1/11-12 VC企画」プランニング		グループワーク 「VC企画」計画案提出①		
12	「1/11-13 VC企画」プランニング		グループワーク 「VC企画」計画案提出②		
13	「12/13-15 ハヶ岳冬期登山」プランニング		グループワーク 「ハヶ岳冬期登山」計画書提出		
14	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」プランニング		グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出①		
15	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」プランニング		グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出②		
16	「1/11-12 VC企画」プランニング		グループワーク		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			役割分担をして効率的に作業を進めてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

科目名	山行プランニング (A)	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	目標地点に立ち、安全圏に無事還るという登山の目的を達成するために、あらかじめ手段や行動内容を決めたものが登山計画。事前に綿密な計画を立てることの重要性を理解するとともに、下山後に登山を評価し次の登山につなげ、一つ一つの経験が途切れることなくつながることで、登山者として成長していくことを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	山行の目的や意義を理解し、それに見合った計画を立案できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図、webなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	休講 (4/17振替)		グループワーク		
2	「4/27-28 雪上訓練」プランニング、準備		グループワーク (3年生と合同) 「雪上訓練」計画書提出		
3	「5/22-26 山岳技術強化実習」プランニング		個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」計画案提出①		
4	「5/22-26 山岳技術強化実習」プランニング		個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」計画案提出②		
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」予習、準備		グループワーク		
6	「6/22-23 登山道整備」プランニング、準備		グループワーク、個人ワーク 「登山道整備」計画書提出		
7	「6/29-30 クライミングレスキュー」プランニング、準備		グループワーク 「クライミングレスキュー」計画書提出		
8	「9/5-8 バリエーション実践」プランニング		グループワーク 「バリエーション実践」計画書提出		
9	「10/12-13 ナビゲーション実践」プランニング		グループワーク 「ナビゲーション実践」計画書提出		
10	「10/19-20 秋山インタープリテーション」プランニング、準備		グループワーク 「秋山インタープリテーション」計画書提出		
11	休講 (4/17振替)				
12	休講 (4/24振替)				
13	「12/13-15 ハヶ岳冬期登山」プランニング		グループワーク 「ハヶ岳冬期登山」計画書提出		
14	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」プランニング		グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出①		
15	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」プランニング		グループワーク、個人ワーク 「冬季山岳技術強化実習」計画案提出②		
16	休講 (5/15振替)				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			役割分担をして効率的に作業を進めてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山行フィードバック	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	登山実技、実習実施後にふりかえりの場を設け、ループで話し合いの場を設けることで、互いの学びを共有したり、客観的に評価する。話し合うことにより信頼関係、話しやすい環境を築いて、山行や日常にも活かしていくことを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	山行、授業をふりかえり、自己・他己評価にて客観的に評価し、自分自身に落とし込むことができる。 山行記録、報告書を作成し、記録として残すことを習慣にできる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	報告書フォーマットを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス		グループワーク		
2	「4/20-21 残雪期登山実習」 「4/27-28 雪上訓練」ふりかえり		グループワーク (2年生と合同) 「残雪期登山実習」 「雪上訓練」 報告書提出		
3	休講				
4	「5/18-19 リムーバブルプロテクション」 「5/22-26 残雪期登山実習」ふりかえり		グループワーク、「リムーバブルプロテクション講習」 「残雪期登山実習」 報告書提出		
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」		グループワーク 「セルフレスキュートレーニング」 報告書提出		
6	「6/22-23 沢登りⅠ(生活技術・渡渉)」ふりかえり		グループワーク 「沢登りⅠ」 報告書提出		
7	「6/29-30 高山植物基礎」ふりかえり		グループワーク 「高山植物基礎」 報告書提出		
8	「7/6/8 沢登りⅡ(生活技術・ナビゲーション)」プランニング		グループワーク 「沢登りⅡ」 報告書提出		
9	「アウトドアフィットネス」 「アウトドアビジネス」ふりかえり		グループワーク 「アウトドアフィットネス」 「アウトドアビジネス」 報告書提出		
10	「10/12-13 秋山インタープリテーション」ふりかえり		個人ワーク「秋山インタープリテーション」 報告書提出		
11	「10/19-20 ナビゲーション実践」ふりかえり		グループワーク 「ナビゲーション実践」 報告書提出		
12	「10/26-27 上高地ジオツアー」ふりかえり		グループワーク 「上高地ジオツアー」 報告書提出		
13	「11/16-17 世界のガイディング」ふりかえり		グループワーク「世界のガイディング」 報告書提出、 「ガイドのコンプライアンス」 報告書提出指示		
14	山行履歴書作成		グループワーク、個人ワーク 山行履歴書の提出		
15	「1/15-19 積雪期登山実習」ふりかえり		グループワーク 「積雪期登山実習」 報告書提出		
16	「12/11-12, 1/11-12 雪の安全管理」および「1/23-26 バックカントリー実習」ふりかえり		グループワーク 「積雪期登山実習」 計画案提出②		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			役割分担をして効率的に作業を進めてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山行フィードバック (B)	授業形態		対面授業のみ		授業の方法		演習	
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×					
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年				
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間				
授業概要、目的、授業の進め方	登山実技、実習実施後にふりかえりの場を設け、ループで話し合いの場を設けることで、互いの学びを共有したり、客観的に評価する。話し合うことにより信頼関係、話しやすい環境を築いて、山行や日常にも活かしていくことを目的とする。								
学習目標 (到達目標)	山行、授業をふりかえり、自己・他己評価にて客観的に評価し、自分自身に落とし込むことができる。山行記録、報告書を作成し、記録として残すことを習慣にできる。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	報告書フォーマットを配布								
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考					
1	ガイダンス			プランニング用紙の記入方法 他					
2	「4/20-21 残雪期登山実習」 「4/27-28 雪上訓練」ふりかえり			グループワーク (2年生と合同) 「残雪期登山実習」 「雪上訓練」 報告書提出					
3	「5/11-12 登山ガイド試験対策Ⅰ」ふりかえり			グループワーク 「登山ガイド試験対策」 報告書提出					
4	「5/22-26 山岳技術強化実習」ふりかえり			個人ワーク、グループワーク 「山岳技術強化実習」 報告書提出					
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」ふりかえり			グループワーク 「セルフレスキュートレーニング」 報告書提出					
6	「6/22-23 登山道整備」ふりかえり			グループワーク、個人ワーク 「登山道整備」 報告書提出					
7	休講								
8	「7/6-7 沢登り」ふりかえり			グループワーク、個人ワーク 「登沢登り」 報告書提出					
9	「登山ガイド検定対策Ⅱ」ふりかえり			グループワーク 「登山ガイド検定対策Ⅱ」 報告書提出					
10	「10/12-13 ナビゲーション実践」ふりかえり			グループワーク 「ナビゲーション実践」 報告書提出					
11	「10/19-20 秋山インタープリテーション」ふりかえり			グループワーク 「秋山インタープリテーション」 報告書提出					
12	「10/26-27 登山ガイドのロープワーク」ふりかえり			グループワーク 「登山のロープワーク」 報告書提出					
13	休講								
14	「11/16-17 世界のガイディング」ふりかえり			グループワーク 「世界のガイディング」 報告書提出					
15	「1/18-19 BCガイディング実践Ⅰ」ふりかえり			グループワーク 「BCガイディング」 報告書提出					
16	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」ふりかえり 「2/1-2 BCガイディング実践Ⅱ」ふりかえり			グループワーク 「冬季山岳技術強化実習」 「BCガイディング実践Ⅱ」 報告書提出					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意					
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				役割分担をして効率的に作業を進めてください。					
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年								

科目名	山行フィードバック (A)	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	登山実技、実習実施後にふりかえりの場を設け、ループで話し合いの場を設けることで、互いの学びを共有したり、客観的に評価する。話し合うことにより信頼関係、話しやすい環境を築いて、山行や日常にも活かしていくことを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	山行、授業をふりかえり、自己・他己評価にて客観的に評価し、自分自身に落とし込むことができる。山行記録、報告書を作成し、記録として残すことを習慣にできる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	報告書フォーマットを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス		プランニング用紙の記入方法 他		
2	「4/27-28 雪上訓練」ふりかえり		グループワーク (2年生と合同) 「雪上訓練」報告書提出		
3	「5/11-12 登山ガイド試験対策Ⅰ」ふりかえり		グループワーク 「登山ガイド試験対策」報告書提出		
4	「5/18-20 バリエーション入門」ふりかえり 「5/22-26 山岳技術強化実習」ふりかえり		グループワーク 「バリエーション入門」「山岳技術強化実習」報告書提出		
5	「6/8-9 セルフレスキュートレーニング」ふりかえり		グループワーク 「セルフレスキュートレーニング」報告書提出		
6	「6/22-23 登山道整備」ふりかえり		グループワーク 「登山道整備」報告書提出		
7	「6/29-30 クライミングレスキュー」ふりかえり		グループワーク 「クライミングレスキュー」報告書提出		
8	休講				
9	「登山ガイド検定対策Ⅱ」ふりかえり		グループワーク 「登山ガイド検定対策Ⅱ」報告書提出		
10	「10/12-13 ナビゲーション実践」ふりかえり		グループワーク 「ナビゲーション実践」報告書提出		
11	「10/19-20 秋山インタープリテーション」ふりかえり		グループワーク 「秋山インタープリテーション」報告書提出		
12	「10/26-27 登山ガイドのロープワーク」ふりかえり		グループワーク 「登山のロープワーク」報告書提出		
13	休講				
14	「11/16-17 世界のガイディング」ふりかえり		グループワーク 「世界のガイディング」報告書提出		
15	「1/18-19 BCガイディング実践Ⅰ」ふりかえり		グループワーク 「BCガイディング」報告書提出		
16	「1/22-26 冬季山岳技術強化実習」ふりかえり 「2/1-2 BCガイディング実践Ⅱ」ふりかえり		グループワーク 「冬季山岳技術強化実習」「BCガイディング実践Ⅱ」報告書提出		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			役割分担をして効率的に作業を進めてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山岳プログラム企画・運営	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年生対象の夏期縦走、アルプス登山実習や旅行会社に提案するプラン、メーカーやメディアと連携したイベントなど、各プログラムを企画・準備し、運営していきます。				
学習目標 (到達目標)	商業ベースでも通用するクオリティを実現するため、綿密な計画を立てるとともに、企画力のみならず、高いマネジメント力を身につけていくことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	雑誌、旅行会社のパンフレットなどに日ごろから目を通し、人気企画などをマーケティングの視点から各自研究しておくこと。				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	年間プログラムとスケジューリング・各担当決定、トラベルマスターズツアーの趣旨説明、ツアー立案について	講座、グループワーク			
2	登山入門企画・ガイダンス準備	グループワーク 登山入門(対象：MP1、5/8米山?)			
3	登山入門アンケート集計と反省、トラマスガイダンス、市場調査	グループワーク			
4	トラマスツアー冬企画、市場調査、ペルソナ設定、	グループワーク			
5	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク			
6	夏季縦走ガイダンス準備・予約・手配、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク			
7	夏季縦走企画、アルプス登山実習企画、トラマスツアー冬企画	グループワーク、「夏期縦走」「アルプス登山」アンケート作成、「トラマス冬企画」プラン案提出①			
8	夏季縦走企画、アルプス登山実習ガイダンス準備・予約・手配、トラマスツアー冬企画	グループワーク、「夏期縦走」計画書提出 「トラマス冬企画」プラン案提出②			
9	夏季縦走企画、アンケート集計、ふりかえり アルプス登山実習企画、アンケート集計、ふりかえり	グループワーク			
10	トラマスツアー冬企画	グループワーク			
11	VC企画 現地調査・ヒアリング (ベーシックコース) ※アルバインコース：休講 (4/17振替)	グループワーク			
12	VC企画 プログラム作成 (ベーシックコース) ※アルバインコース：休講 (4/24振替)	グループワーク			
13	冬期登山入門企画・ガイダンス準備	グループワーク			
14	冬期登山入門企画・ガイダンス準備	グループワーク			
15	冬期登山入門アンケート集計、ふりかえり トラマス冬企画準備	グループワーク			
16	VC企画 下見・準備 (ベーシックコース) ※アルバインコース：休講 (5/15振替)	グループワーク			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率と授業態度及びプログラムの企画内容で評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。		授業外でも準備の時間をつくり、各自が責任をもって企画に取り組み、すべてのプログラムを充実させた内容にしたうえで実施してください。綿密な企画がクライアントの満足度や安全につながることを常に意識して取り組んでください。実施後のアンケートを実施し、改善していくこと。			
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	登山ガイド実践	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	64時間
授業概要、目的、授業の進め方	リーダーシップを発揮し、安全面に配慮しながらガイディングを行う。				
学習目標 (到達目標)	ガイドとしての実務経験を積み、学んだ知識・技術を実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本山岳ガイド協会教本 「ガイドの基礎的知識」「専門的知識」他				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「登山実技(フリークライミング)」指導演習 ※アルパインコース		対象：MP1 講師：丸木太、川合陽介、吉田美栄		
2	「登山入門」指導演習		対象：MP1 講師：磯谷優、吉田美栄		
3	「夏季縦走登山実習Ⅰ」指導演習		対象：MP1 講師：中野豊和、川合陽介		
4	「アルプス登山実習」指導演習		対象：1年生 講師：中野豊和、川合陽介、吉田美栄		
5	「冬期登山入門」指導演習		対象：MP1 講師：川合陽介、吉田美栄		
6	「VC企画」実施 ※ベーシックコース		対象：一般 引率：吉田美栄		
7	トラベルマスターズツアー下見		対象：一般 引率：吉田美栄		
8	トラベルマスターズツアー実施		対象：一般 引率：吉田美栄		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及びガイディングで評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			一つ一つの実習を振り返り、必ず改善点を見出し、数をこなすごとに着実にガイディング能力が向上するよう努力してください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山岳研究	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自分が興味を持って調べ、まとめ、人に伝える（発表する）ことは、自分をさらけ出すことでもあります。社会に出ると、アイデア立案、企画作成、業務運営等の様々な場面で、意見を求められたり、考えをまとめ伝えるなど、「自分」を相手にさらけ出す（伝える、表現する）機会が数多くやってきます。【目的】卒業研究では、自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完成させる。				
学習目標 (到達目標)	卒業研究を進める過程を通し、自分が暮らす現実社会や仕事として携わる業界に関する問題・課題を見つけ出し、現状を調査し、解決策・改善策・将来ビジョンを提示する基本的なスキルを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション（卒業研究の概要）、テーマ決定、研究計画の作成		■ノートPC持参		
2	テーマ発表、研究計画の作成・発表、調査・制作活動開始		■ノートPC持参		
3	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
4	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
5	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
6	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
7	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
8	中間発表（進捗状況確認）		■ノートPC持参		
9	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
10	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
11	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
12	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
13	中間発表（パワーポイント）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
14	調査・制作活動（教員が個別に対応）		各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動		
15	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）		■ノートPC持参		
16	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）		■ノートPC持参		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と研究への取組み、卒業研究論文、発表会の内容、提出物をもとに評価を行う。 提出物：卒業論文、卒業研究発表要旨、卒業発表（パワーポイント） 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			研究は、「自分の力でやり遂げる」ことがもっとも大切です。もちろん、わからないことはどんどん聞いてください。アドバイスを得ながら作業を進めることも、期限内に卒論（仕事）を完成させる「自分の力」の重要な要素だからです。時間的、労力的、精神的にきつい時があるかと思いますが、皆に見せたい論文、聞かせたい発表を作り上げてください。		
実務経験教員の経歴	登山ガイド歴6年・専門学校での講師歴5年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	クライミング指導演習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	演習
担当教員	佐々木大輔/加藤直之/渋沢暉		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング技術において、複数ピッチを安全に登るための支点構築・システム構築・懸垂下降・カムやナッツなどのリムーバブルプロテクションの使い方などを習得し、マルチピッチの一連の流れを理解してもらいながらインストラクションを行う。				
学習目標 (到達目標)	安全かつ正確にマルチピッチでゲストをガイディングできるようにインストラクション技術を身につけるとともに、自己の知識や技術の確認・定着をする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：東京新聞出版局 増補改訂新版イラストラッキング、日本の岩場（白山書房）、日本登山体系（白水社） 国土地理院2万5千分1地形図を配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1年生マルチピッチクライミング基礎への同行 ■懸垂下降 ■支点構築（流動分散・固定分散・角度等） ■マルチピッチシステムの確認 ■全体の流れを確認（リード～システム構築～フォローが登る～懸垂ロープセット～下降）		実習地：物見岩		
2	2年生マルチピッチクライミング基礎への同行 ■カム・ナッツの使用法の確認 ■カム、ナッツでの支点構築の方法		実習地：尼厳山		
3	岩場での実践		実習地実績：錫杖岳ほか		
4			岩場での経験を活かしバリエーションルートの山岳登攀を実践する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			<ul style="list-style-type: none"> ・クライミング用具一式（ハーネス・環付カラビナ・カラビナ・スリング・ブルージックコード・ピレイ器・クイックドロウ・アルパインドロー・クライミングシューズ・ヘルメット・ピレイグローブ） ・カミングデバイス・ナッツ・ナッツキー・ギアラック・ダブルロープ ・蜂スプレー・FAキット(38mmテーピングは各自用意すること) ・その他日帰りでマルチピッチに行ける装備(ヘッドランプ・ナイフ・笛なども) ・当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性があります。 		
実務経験教員の経歴	佐々木大輔：GUIDE BANKEI代表 山岳ガイド歴20年以上 加藤直之：山岳ガイド歴10年以上				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	クライミング春合宿Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	丸木太／外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本を代表するクライミングの岩場で、さまざまな種類の課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。内容としてはショートルート、ボルダリング、マルチピッチクライミングを実施するが、1年生は自然の岩場でのクライミングに慣れること、基本的な安全管理ができるようになることを目的とする。クライミングコースは外岩でのクライミング能力を高めることはもちろん、ロープワーク・支点構築等、外岩での安全管理を確実にし、ガイドとしてのトレーニング経験を積む。				
学習目標 (到達目標)	マルチピッチクライミングの理解・実施（安全管理含）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>【団体装備】クライミングロープ シングルロープ、スリング、カラビナの予備、幕営用具（テント一式、テントマットなど）、炊事用具（ストーブ、燃料、コックヘル大）、ボルダーマット（クラッシュパッド）</p> <p>【個人装備】クライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ピレイ器、クライミングシューズ等）、テント泊個人装備（シュラフ、個人用マットなど）、着替え（防寒具含）、雨具、食料（朝2食分、夕2食分、予備食）、行動食（昼食3食分）、食事（実習期間の朝食、夕食は各自で準備）</p>				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
	【1日目】小川山 ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習		実習地：小川山（廻り目平キャンプ場） ※小川山は、ベースキャンプで標高1,600m。寒いことが予想されます。		
	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎				
	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			・当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性あります。		
実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、他方でのクライミング指導歴等実務指導歴10年以上				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	マルチピッチクライミング基礎	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	佐々木大輔/加藤直之/渋沢暉		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング技術において、複数ピッチを安全に登るための支点構築・システム構築・懸垂下降・カムやナッツなどのリムーバブルプロテクションの使い方などを習得し、マルチピッチの一連の流れを理解する。				
学習目標 (到達目標)	2・3年次のプライベート山行において、各自で安全かつ正確にマルチピッチでリードクライミングを行えるようになるための基礎を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考図書：東京新聞出版局 増補改訂新版イラストクライミング				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	物見岩 ■懸垂下降の確認 ■支点構築（流動分散・固定分散・角度等） ■マルチピッチシステムの確認 ■全体の流れを確認（リード～システム構築～フォローが登る～懸垂ロープセット～下降）		講習・実践・フィードバック 参考図書「イラストクライミング」を熟読して実習に望むこと 天候により実習地が変更になる場合あり		
2	尼飾山 ■1日目に学んだことを実践 カム・ナッツの使用の確認 カム、ナッツでの支点構築の方法		講習・実践・フィードバック 参考図書「イラストクライミング」を熟読して実習に望むこと 天候により実習地が変更になる場合あり		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			<ul style="list-style-type: none"> ・クライミング用具一式（ハーネス・環付カラビナ・カラビナ・スリング・ブルージックコード・ピレイ器・クイックドロウ・アルパインドロー・クライミングシューズ・ヘルメット・ピレイグロブ） ・カミングデバイス・ナッツ・ナッツキー・ギアラック・ダブルロープ ・蜂スプレー・FAキット(38mmテーピングは各自用意すること) ・その他日帰りでマルチピッチに行ける装備(ヘッドランプ・ナイフ・笛なども) ・イラストクライミングの配布資料を熟読し、練習してから本実習に望むこと。 ・山岳オリエンテーションで学んだロープの束ね方やさばき方、基本的な結びについて各自復習しておくこと。 ・駐車場から岩場までのアプローチやルートについても各自事前に研究しておくこと。 当日の天候、メンバーの力量・習熟度により内容や場所に変更の可能性がります。		
実務経験教員の経歴	佐々木大輔：GUIDE BANKEI代表 山岳ガイド歴20年以上 加藤直之：山岳ガイド歴10年以上				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	登山ガイド検定対策Ⅰ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師／吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>本実習は日本山岳ガイド協会が認定する登山ガイド資格取得のための必修実習です。合否を問われる検定ではありませんが、これまでi-nacの授業で学んできたガイドスキルが登山ガイド資格認定レベルに達しているかどうかガイド協会の検定員の方が確認する意味も含まれています。確認される技術についてはテキスト『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』の内容に準じますので、事前に熟読しておください。</p> <p>講師は日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドの方が務め、プロの目から厳しく指導していただきます。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。</p>				
学習目標 (到達目標)	(公社) 日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドに必要なガイド技術の理解および習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編 『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』『自然ガイド・登山ガイド職能別ガイド検定試験筆記試験問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイド総論(ガイドの心構え・ガイドの仕事・ガイド業界の現状・ガイドの技術ほか)		座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
2	学科試験対策		座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
3	安全管理技術基礎		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 学内ロビーや学校周辺のフィールドで、ロープワーク等の技術講習を実施。		
4	フィールドワーク (安全管理技術)		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
5	フィールドワーク (ガイディング技術)		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び顧客用配布資料の内容により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			上記の予定ですが天候等でルート等変更がある可能性があるため、上記コース外でも対応できるように調べておくこと。 装備：ルートガイディングに必要な装備すべて+ヘルメット(後半の3日間必要) (レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。) ※注意 以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツエルト(2~3人用以上)、ヘッドランプ×2(顧客用予備含)、FAキット、火器食器		
実務経験教員の経歴	外部講師：(公社) 日本山岳ガイド協会試験委員会検定員				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	登山ガイド検定対策Ⅱ	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	外部講師／吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>本実習は日本山岳ガイド協会が認定する登山ガイド資格取得のための必修実習です。一般受験者が受ける検定、義務講習の内容を総合的に学ぶ実習なので、これまで学んだことを復習し、またテキスト『ガイドの基礎的知識 教本』『自然・登山ガイドの専門的知識 教本』『山のファーストエイド 教本』を熟読しておいてください。講師は日本山岳ガイド協会試験委員会の検定員であるプロのガイドの方が務め、プロの目から厳しく指導していただきます。本番の試験を受ける緊張感を持ち取り組んでください。</p> <p>実習Ⅱではより実践的な内容が含まれます。安全管理に関わる技術をフィールドで試されたり、ルートガイドイングも一人ずつ実践を任せられますので、事前準備、資料作成をしっかりと行ってください。</p>				
学習目標 (到達目標)	(公社)日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドに必要なガイド技術の理解および習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益社団法人日本山岳ガイド協会編 『ガイドの基礎的知識教本』『自然・登山ガイドの専門的知識教本』『山のファーストエイド教本』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイド概論(ガイドの心構え・ガイドの仕事・ガイド業界の現状・ガイドの技術ほか)		座学 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
2	ファーストエイド・危急時対応		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
3	フィールドワーク (ルートガイドイング実践)		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員		
4	フィールドワーク (自然解説技術)		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 実習地実績：東俣沢観音沢～旧御射山～ヒュッテジャヴェル (山小屋泊) 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。		
5	フィールドワーク (自然解説技術)		実習 講師：日本山岳ガイド協会試験委員会検定員 実習地実績：ヒュッテジャヴェル～車山湿原～八島ヶ原湿原～観音沢登山口 事前に「顧客用配布資料」を作成し提出すること。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び顧客用配布資料の内容により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			上記の予定ですが天候等でルート等変更がある可能性があるため、上記コース外でも対応できるように調べておくこと。 装備：ルートガイドイングに必要な装備すべて+ヘルメット(後半の3日間必要) (レスキュー等のロープワークも含まれますので、ガイド基本装備をすべて用意し、野外で活動できる服装で参加すること。上に着る服は襟付きのものとする。) ※注意 以下は個人で準備すること：30mロープ、カラビナ類、スリング類、ツェルト(2～3人用以上)、ヘッドランプ×2(顧客用予備含)、FAキット、火器食器		
実務経験教員の経歴	外部講師：(公社)日本山岳ガイド協会試験委員会検定員				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	残雪期登山実習	授業形態		対面授業のみ		授業の方法		実習	
担当教員	渋沢暉／清原翔太		実務授業の有無		○				
対象学科	山岳プロ	対象学年	2		開講時期	前期			
必修・選択	必修	単位数			時間数	40時間			
授業概要、目的、授業の進め方	残雪期の山の登山技術全般を学ぶとともに、事前のプランニングの重要性について理解する。春に特有の山の状況を知り、低温、氷化した斜面の登下降、地形判断、天候判断、生活技術全般など総合的にトレーニングを行う。								
学習目標 (到達目標)	各自で目的を設定し、その目的を達成するために適した実習地を選定することができ、滞りなく山行を実践することができるようになる。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プランニングに関する資料を配布								
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考					
1	(午前) プランニングに関する講義、各自考えてきたプランの発表・フィードバック・修正・絞り込み (午前) 登山計画書作成・団体装備準備・買出し			9:30開始 教室は後日連絡 (午前) 情報共有。個人による計画書作成。実習地の決定 (午後) 役割分担し山行準備					
2	2泊3日または3泊4日の山行			山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 積雪状態や天候により変更の可能性あり					
3									
4									
5									
評価方法・成績評価基準				履修上の注意					
出席率と授業態度及び提出物により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				<p>■団体装備</p> <input type="checkbox"/> 幕営用具一式：テント、テントマット、雪用ベグ、張り綱等 <input type="checkbox"/> 補助ロープ 8mm×30m 2本 <input type="checkbox"/> 炊事用具：ガソリンストーブ、燃料、木板、鍋等 <input type="checkbox"/> 食料：朝2食分、夕2食分 <input type="checkbox"/> ファーストエイドキット <input type="checkbox"/> その他残雪期登山に必要な用具					
				<p>■個人装備</p> <input type="checkbox"/> ピッケル、アイゼン (12本爪、アイゼンが装着できる登山靴など) <input type="checkbox"/> プローブ、ショベル、ピーコン、スノーソー、トレッキングポール <input type="checkbox"/> 地図、コンパス <input type="checkbox"/> ラッセル用スノーシューorわかん <input type="checkbox"/> 宿泊個人装備 (シュラフ、個人用マット、シュラフカバーなど) <input type="checkbox"/> 衣類一式 (着替え、防寒着、替えグローブ含む) <input type="checkbox"/> 行動食 (3日分+予備)、予備食1日分 (行動食とは別) <input type="checkbox"/> サングラス (雪盲防止)、ゴーグル <input type="checkbox"/> ヘルメット・ハーネス・ガチャ類 <input type="checkbox"/> テルモス (携帯用魔法瓶) <input type="checkbox"/> その他残雪期登山に必要な用具					
				<p>■事前課題</p> 2泊3日の山行を行う実習地 (山域とルート) を各自考えておいてください。 ※ <input checked="" type="checkbox"/> ーコン、ショベル、プローブ、スノーシュー・わかんは学校備品を使用可能。					
実務経験教員の経歴	渋沢暉：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅡ、日本雪崩ネットワークレベル1修了、ウイリダネス・ファーストエイド50h修了 清原翔太：登山ガイド歴5年。専門学校での講師歴3年。								

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	高山植物同定実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	高木律子/吉田美栄		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>本実習は、山の魅力を伝えるプロフェッショナルとして欠かせない高山植物に関する知見を高めるためのものである。高山特有の花や木は、訪れる登山者にとって夏山の大きな魅力のひとつになっている。その魅力を伝えられるスキルは、山行を充実させるだけでなく、多人数のツアーにおいてはペースを調整することもでき、また環境保全への高い意識を喚起させられる重要な要素にもなっている。</p> <p>日本山岳ガイド協会においても、環境への意識の高いガイド養成に大きな力点をおいており、ガイド検定試験でも植物の知識は大きな柱となっている。</p> <p>今実習を通して、山岳の植生に造詣を深め、環境保全への意識を高めていくことを望む。</p>				
学習目標 (到達目標)	高山植物を正確に同定し、知識として身につけることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>参考資料</p> <p>①『山溪カラー名鑑 日本の高山植物』（山と溪谷社）</p> <p>②『ひと目で見分ける250種 高山植物ポケット図鑑』（新潮文庫）</p> <p>③『高山植物ハンディ図鑑』（小学館101ビジュアル新書）</p> <p>※①は高価なので見たい人は図書室の本棚へ。②③は小型でハンディサイズなので、日ごろの山行に持って行きたい人向き。</p> <p>※その他、入山口の栂池で白馬エリアのポケット図鑑を購入することができます。</p>				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	山行		山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり		
2	1日目 学校→栂池→白馬大池 2日目 白馬大池→白馬岳→村営頂上小屋幕営地				
3	3日目 幕営地→大雪渓→猿倉→学校				
4	学校にて講義、同定作業・プレゼンテーション		<p>学校で講義、個人ワーク</p> <p>・観察できた植物の中から気に入ったものを一つ選び、特徴などをまとめて紹介資料を作成し発表・提出。</p> <p>植物の名前を調べ（同定）て写真データを提出。</p>		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>出席率と授業態度及び成果発表により評価を行う。</p> <p>出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。</p> <p>成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。</p>			<p>フィールドではメモを取る、カメラ、スマートフォン等で写真を撮影するなど発表に必要な素材を現地で集めてください。</p> <p>最終日にプレゼン資料にして発表・提出していただきます。</p>		
実務経験教員の経歴	高木律子：登山ガイド歴20年以上。高山植物の知識だけでなく、自然解説手法や環境保全などについて指導する。				

科目名	沢登り実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	服部文祥/竹石幸司		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本独自の登山スタイルである沢登りを実践しながら、渡渉、へつり、沢登り独特の泳法、確保技術を学び、安全に山行を行える総合的な判断力を身につける。また、安全な場所を選択したうえでの露営、生活技術の向上も図り、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。				
学習目標 (到達目標)	① 水系の地形を理解したルートナビゲーション及びプランニングを実施し、登山ガイドステージIIの職能範囲内の活動エリアにおいて、自分たちで安全に活動することができる。・プランニング・登山計画書の作成・気象判断・行動判断・ナビゲーション②安全に活動するための沢登りの基礎的なスキルを習得する。・グループマネジメント・セルフレスキュー等について学ぶ③なるべく最新用具に頼らないシンプルな山中生活を体験する・サバイバル登山家の知恵と経験に導かれた最小限の山行スタイルを経験し、吸収する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	国土地理院2万5000分の1地形図 参考図書：『サバイバル登山家』服部文祥著（みすず書房）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	沢登りの基本と精神		学校にて講義		
2	沢登り実践		教室、および学校周辺フィールドでの実践		
3	沢登り実践		安全に配慮しながら、パーティで山行を実践する		
4	沢登り実践		安全に配慮しながら、パーティで山行を実践する		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			【沢登り特有の装備】沢靴（ソールはフェルトカラバー）、ネオブレンソックス、スパッツ、濡れても冷えないウエア、防水パッキング、着火剤、直接火にかけられるクッカー等 【通常のテント泊山行との違い】タープやツエルトの下で夜を過ごすので、吸血虫対策、防寒対策はしっかりと。エアマットは推奨できない。バリエーションルートになるので、各自事前の体調管理はしっかりと行うこと。		
実務経験教員の経歴	服部文祥：サバイバル登山家。フリークライミング、沢登り、山スキー、アルパインクライミングからヒマラヤの高所登山（K2）まで、オールラウンドに登山を追求。山岳雑誌『岳人』編集部部長。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	多言語コミュニケーション実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	林 智加子		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	昨今、日本を訪れる外国人旅行者は増加し続け、英語を主力とするガイド能力、また異言語のゲストを対象としたコミュニケーションスキルの向上の必要性が高まっています。本実習では様々な(主にガイドングにおいて)の場面を舞台として、外国語コミュニケーションスキルを磨き・高め・準備が出来る人材の育成を目指す。				
学習目標 (到達目標)	外国人旅行者または日本語を主言語としない地域の人と異言語におけるコミュニケーションスキルを元にしたガイドングへの準備をして実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自然ガイド環境保全学科において使用している、生物・植物・自然環境についてのテキスト、携帯電話（およびWiFi＝言語検索などのツールとして）、地域オリエンテリングマップなど観光案内資料、ノート、小さなメモ帳と筆記用具等 その他必要に応じて講座中に配布するものがある。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	【イントロ】受講生・講師の自己紹介、学習領域の説明 【座学】 ・「コミュニケーション」とは何かを理解する ・「ガイド」の責任・目的・課題・準備を明確にとらえる		自己紹介、ゲーム、討議		
2	【スキル】 ・ガイドングに活かせる「チート・シート」の作成 ・ガイドングに活かせる参考資料の選択・作成 ・昼食時・休憩時・活動中のコミュニケーションについて 考え、その手法・手段を確立する		個人ワーク、グループワーク、討議		
3	・「異文化・異言語の相手に学ぶ」ことができるようになることで、スムーズな人間関係の構築を目指し、それをガイドングに活かす				
4	【実技】 ・言語力に頼らないコミュニケーションスキルの実践 ・シナリオ：「作成した自作の資料を活用しよう」 ・シナリオ：「コンビニに一緒に行ってみよう」 ・シナリオ：総合演習 【まとめ・評価】 今後の様々なガイドングを行う上で、コミュニケーションへの課題と解決のための手段を見つけるカギ（考え方の手段）を掌握できる		ゲーム、シナリオ、ロールプレイ、ワークシート		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
それぞれの学習目的やタスクへの取り組み、そのコンプレクション(理解度)・チェックに置いて習熟度の評価を行う。合格・不合格の結果を出すとともに、個人における今後の取り組みの課題を提出するものとする。		著しい欠席、怠慢、無気力がみられる場合、学科教員も含めた話し合い後にも改善が見られない場合は成績評価は行わない。			
実務経験教員の経歴	林智加子：ニュージーランドでスキーパトローラーとして7年勤務、帰国後富士山ガイドとして長く従事し、登山ガイドやスキーガイドとしても活動。12年前よりインバウンドも対象とした英語でのガイドングを行っている。カナダにて雪崩業務従事者レベル1インストラクターとしての研修を経て、現在日本で講師を務める。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	山岳技術強化実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	黒田誠/増本亮		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	選択必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	登山実技Ⅲのバリエーション実践で学んだ知識や習得した技術を本実習につなげるとともに、登山技術全般について学ぶ。自ら本実習における明確な目標、目的を決め、滞りなく山行を行えるよう計画し実践することを目的とする。				
学習目標 (到達目標)	自ら目標を設定しそれを実践することにより、自立した登山者になることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本登山体系、アルペンガイドなどのエリア別ルートガイド、登山地図、国土地理院2万5千分1地形図。インターネットからの情報収集は原則禁止。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	(午前)各自考えたプランの発表・フィードバック・絞り込み (午後)登山計画書作成・団体装備準備・食料買出し		考えたプランに対して講師陣がフィードバック。プランを修正し最終決定。		
2	山行		2泊3日、1泊2日+日帰り、日帰り×3などの山行を実施 山行実践・振り返り・講師からのフィードバック		
3					
4					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率と授業態度及び事前の提出物(山行プランニング用紙)により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。			・事前のプランニング準備の時間をつくり、明確な目標・目的を定め、それを達成するためにふさわしいフィールドを選定してください。 また、雨天時を考慮して、山域や標高帯の異なるサブプランも考えてください。 ・各自考えたプランは講師陣に事前に確認していただき、内容に問題があればやり直しになる場合があります。		
実務経験教員の経歴	黒田誠：黒田ガイド事務所代表 ガイド歴10年以上 増本亮：アルパインクライマー 国内外での登攀歴15年以上 目標の設定やそれに見合った山域の選定などの準備段階から、山行実践・振り返りまで、山行をトータルで指導する。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	夏期縦走登山実習Ⅰ		授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	中野豊和/川合陽介		実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ	対象学年	1	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間	
授業概要、目的、授業の進め方	3年生がガイドとして1年生を顧客に見立て3泊4日のツアーを企画運営し、1年生に登山技術の基礎を指導する。また1年生は3年生のガイドングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の実習に備える。					
学習目標 (到達目標)	基礎的な登山技術や無積雪期のテント泊での生活技術を習得する。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	3年生が作成した顧客用配布資料と国土地理院2万5千分1地形図を配布。					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	学校で打ち合わせ・準備			行程の再確認・1年生の装備チェック・団体装備振り分け・食事メニューの決定・食料買い出し		
2	3泊4日の山行 【実績】			山行実践・振り返り・講師からのフィードバック 天候により実習地・日程に変更の可能性あり		
3	1日目 学校～折立～太郎平小屋～薬師峠キャンプ場					
4	2日目 薬師峠キャンプ場～太郎小屋～薬師沢小屋～雲ノ平キャンプ場					
5	3日目 雲ノ平キャンプ場～祖父岳～ワリモ北分岐～水晶岳～鷲羽岳～三俣山荘～三俣蓮華岳～双六岳～双六小屋					
5	4日目 双六小屋～弓折分岐～鏡平山荘～わさび平小屋～新穂高～学校					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。				3年生より事前ガイダンスあり		
実務経験教員の経歴		中野豊和：登山ガイドステージⅡ、スキーガイドステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者レベル2、日本テレマークスキー協会 公認指導員、有限会社 スリーウェイナビゲーション (1997～2006年)、インフィールド代表、ガイド歴20年以上 川合陽介：登山ガイドステージⅡ、ガイド歴3年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面授業のみ	授業の方法	実習
担当教員	受入企業・団体		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	120時間
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築				
学習目標 (到達目標)	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、 ■学生調書 ■志望動機書 ■その他配布資料				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査	希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。			
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出	学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。			
3	受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど）	学生自身が受入担当者に電話連絡			
4	受入先における研修（7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上）	研修期間中、毎日、実習日誌に記入し、受入先担当者に提出。			
5	研修後、実習報告書・実習レポートを作成。	実習報告書・実習レポート（word）・実習日誌を担当教員に提出。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 2021年9月20日までに15日間以上の研修を実施できていない場合は、原則として成績評価を行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		<ul style="list-style-type: none"> ■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書・レポートの提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。 			
実務経験教員の経歴	当該学科の進路・就職先としてモデルとなる企業・団体や、アウトドア業界で先進的な取り組みをしている企業・団体と連携し、インターンシップ受入の業界ネットワークを構築している。担当者の経歴はインターンシップ受入先企業・団体による。				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ホームルーム			授業の方法	講義
担当教員	遠藤 晋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアロイストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。 ③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標 (到達目標)	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	◆16:20~学生カード作成（各学科） ◆16:40~保険説明（Teamsにて全体説明）◆17:15~奨学金ガイダンス(対象者)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
2	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
3	実習オリエンテーション（5-6月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
4	◆オンライン◆学科別HR（MP406/407 OES306 NGC303/304 CL301、OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
5	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
6	学学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
7	実習オリエンテーション（7月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
8	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
9	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
10	実習オリエンテーション（11月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
11	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
12	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
13	就職研修オリエンテーション			12月に実施する就職研修のガイダンス	
14	学科別HR（MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305）			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
15	実習オリエンテーション（1月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
16	就職状況報告会			3年生が就職活動状況を発表	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドアスポーツ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）	
実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴1年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ホームルーム			授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドア・キャンプビジネス/自然ガイド・環境保全/自然環境保全/山岳プロ/アウトドアインストラクター	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標 (到達目標)	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	◆16:20~学生カード作成（各学科） ◆16:40~保険説明（Teamsにて全体説明） ◆17:15~奨学金ガイダンス(対象者)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
2	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
3	実習オリエンテーション（5-6月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
4	◆オンライン◆学科別HR (MP406/407 OES306 NGC303/304 CL301, OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
5	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
6	学学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
7	実習オリエンテーション（7月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
8	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
9	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
10	実習オリエンテーション（11月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
11	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
12	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
13	就職研修オリエンテーション			12月に実施する就職研修のガイダンス	
14	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動	
15	実習オリエンテーション（1月分）			履修する実習別にガイダンスを受講	
16	就職状況報告会			3年生が就職活動状況を発表	
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・アウトドア学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）		
実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴2年				

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	ホームルーム	授業形態	対面授業・遠隔授業併用	授業の方法		講義	
担当教員	小野 彰太		実務授業の有無	×			
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ	対象学年	3	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	<p>①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。</p> <p>②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。</p> <p>③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。</p> <p>④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。</p>						
学習目標 (到達目標)	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料(実習実施要項など)を適宜配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	◆16:20~学生カード作成(各学科) ◆16:40~保険説明(Teamsにて全体説明) ◆17:15~奨学金ガイダンス(対象者)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
2	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
3	実習オリエンテーション(5-6月分)			履修する実習別にガイダンスを受講			
4	◆オンライン◆学科別HR (MP406/407 OES306 NGC303/304 CL301、OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
5	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
6	学学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
7	実習オリエンテーション(7月分)			履修する実習別にガイダンスを受講			
8	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
9	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
10	実習オリエンテーション(11月分)			履修する実習別にガイダンスを受講			
11	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
12	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
13	就職研修オリエンテーション			12月に実施する就職研修のガイダンス			
14	学科別HR (MP406/407 OES・CB306 NGC303/304 CL301 OPI305)			学科別に分かれ、指定の教室で活動			
15	実習オリエンテーション(1月分)			履修する実習別にガイダンスを受講			
16	就職状況報告会			3年生が就職活動状況を発表			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			学科別活動：山岳プロ学科(MP)、野外教育・アウトドアスポーツ学科(OES)、自然ガイド・環境保全学科(NGC) 【その他行事予定】 4/9(金)進級生オリテ、7/16(金)特別授業、9月実習オリテ、終了式、マテリアルルームの棚卸、12/2-3(木・金)就職研修、2/18(金)卒業研究発表会、終業式、マテリアルルーム棚卸(未定)スポーツ大会				
実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴3年以上						

②

国際自然環境アウトドア専門学校 シラバス

科目名	就職準備研修Ⅰ			授業の方法	演習
担当教員	遠藤 晋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・アウトドアスポーツ/ 自然ガイド・環境保全/山岳 プロ/クライミングインストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	実践行動学のテキストを通して、他者との関わりの中で自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	Part1 学校生活のスタートラインに立っている時期に過去の時分を振り返り、また現在・近未来の時分について考えることを通して短期目標を設定する。 Part2 入学後から現在までを振り返り、自らの成長の足跡を確認する。そのうえで、自己の潜在的な能力や可能性を引き出すための考え方や意識の持ち方に気づきを与えるとともに、自立に向けた技術・方策を提供する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学研究所 夢実現のための実践行動学				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part1 意欲的な心構え マジックドア1 夢と目標 マジックドア2 夢を喰うバク…「誤った思い込み」と「言い訳」 マジックドア3 自分への信頼を取り戻すために その1 行動のよりどころと心構え マジックドア4 自分への信頼を取り戻すために その2 まず第一歩を マジックドア5 目標を設定しよう		テキスト読み合わせ・グループワーク		
2	Part2 自分の可能性を広げよう マジックドア1 プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる マジックドア2 考え方を換えれば行動が変わる マジックドア3 あなたの問題は、あなたが解決できる マジックドア4 あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう マジックドア5 目標が才能・可能性を開花させる		テキスト読み合わせ・グループワーク		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			自分と向き合うと同時に、他者の考えに触れられる貴重な時間です。意欲的に取り組んでください。		
実務経験教員の経歴	専門学校での担任歴1年				

